九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

「ポリモルフィア」創刊10 年目を迎えて

上瀧，恵里子
九州大学男女共同参画推進室 ： 教授

青木，玲子
公正取引委員会 ： 委員

武内，真美子
愛知学院大学経済学部 ： 教授

山下，亜紀子
九州大学大学院人間環境学研究院 ： 准教授

https://hdl.handle.net/2324/7347451

出版情報：ポリモルフィア. 10, pp.22-33, 2025-03-21. Office for the Promotion of Gender Equality, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

特集 2

「ポリモルフィア」創刊 10 年目を迎えて

morfi

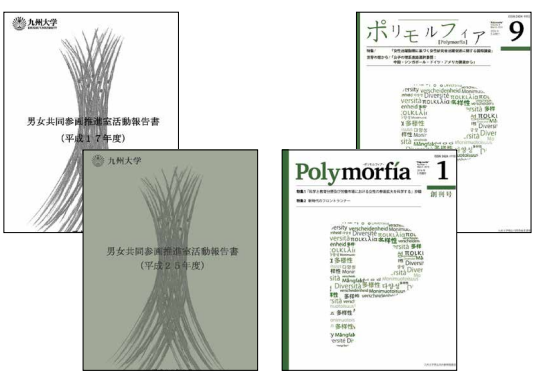
「ポリモルフィア」創刊 10 年を振り返って

上瀧恵里子
九州大学男女共同参画推進室 教授

創刊の経緯

本誌『ポリモルフィア』は創刊から10年目を迎えた。創刊に至る経緯は、当時の男女共同参画推進室長である青木玲子理事・副学長（現 公正取引委員会委員）による巻頭言から、以下の通り要約する。

2004年に設置された九州大学男女共同参画推進室では設置翌年の2005年度から『男女共同参画推進室活動報告書』を発刊し、本学の男女共同参画の活動に関わる情報発信を行っていた。年月を経る中で本学の取り組みも進展し、掲載される内容も多岐にわたり、広報誌として期待される役割も大きくなってきた。そこで2015年2月の会議において「現在の活動報告書をより充実したものにする」との基本合意を得、「活動報告書」を発展的に廃刊し、研究論文等の発表媒体も有する総合的な広報誌として創刊する運びとなり、2016年3月に創刊号を発行した。（要約以上）



「活動報告書」から「ポリモルフィア」へ

『ポリモルフィア』の命名は本誌の創刊に尽力された当時の男女共同参画推進室企画広報環境整備部門長 近藤加代子氏（現 大学院芸術工学研究院教授）によるものである。同氏による創刊号編集後記を紹介する。「ポリモルフィア（Polymorfía）というタイトルは、ダイバーシティのギリシャ語の発音です。古代ギリシャのアリストテレス哲学はルソーをはじめ近代社会理論に大きな影響を与え、現代でも交換的正義と分配的正義、あるいは議論によって成り立つ市民的公共性など、多くの学術的議論の核であり続けています。ささやかに生まれた本誌ですが…（中略）…多様な議論の場を提供しながら、みなさまによって育てられていくことを願ってやみません。」

ポリモルフィア誌の表紙や誌面のデザインは当時の大学院芸術工学研究院池田美奈子准教授（現 Edit and Design　編集者/デザインリサーチ）、藤紀里子助教の監修のもと芸術工学部の学生の手によるものであり、表紙や内装などは個性的で斬新な他に類を見ない装丁・デザインとなっている。写真に示すように創刊号は“Polymorfía”とギリシャ語の発音記号であったが、ISSN番号を取得する過程で発音記号表記が認められず、Vol.2から「ポリモルフィア」とカタカナ表記となったと聞いている。

創刊号の構成

創刊号の構成を概観する。「**特集１**」としてその年度の11月に同時通訳付きで開催した「科学と教育分野及び労働市場における女性の労働参画拡大を科学する」ワークショップの抄録を掲載している。その時の基調講演は、米国国立科学財団、社会科学・行動科学・経済学局 副局長のKellina Craig-Henderson氏に加えて学内外から１名ずつ、パネル討論にもさらに学内外から１名ずつという布陣であった。このうちパネル討論の登壇者の１名が本号において10周年の特集に寄稿された山下亜紀子氏である。

「**特集２**」は、「新時代のフロントランナー」とし、４名の女性の講演抄録やインタビューを掲載している。九州大学の第１回ダイバーシティ推進トップセミナーで講演された総合科学技術・イノベーション会議の原山優子氏をはじめとし、企業や大学で活躍する４名を取り上げた。

特集の次は「**九大フラッシュ**」である。ここではその年の九州大学男女共同参画推進室のニュースや取り組みを紹介している。この年に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」が開始された。九州大学は初年度に「特色型」に採択され、ここにその事業の活動報告を掲載した。その後同事業の「先端型」「調査分析」にも採択されたためVol.10まで毎年事業報告を掲載することとなった。そのほか、創刊号ではその年に開始した「育児シッター利用支援」、基幹教育講義「ダイバーシティ社会におけるキャリアデザイン」を紹介している。

「**世界の窓から**」では2015年韓国で開催されたGender Summit 6の参加報告、及びミネソタ州立大学教授による仕事と家族に関する講演など海外事情の紹介記事となっている。

「**ジェンダー研究に取り組む学生への研究助成プログラム**」は2010年から男女共同参画推進室が実施しており、前年度の審査総評と採択者の中から２名の学生の研究成果報告を掲載した（その後、Vol.4から採択者全員の要旨掲載に変更されている）。

最初の企画記事として編集委員のうち３名が学会レポート「―**学会における託児の状況**―」で所属学会の学会開催時の託児状況を紹介している。一般の寄稿は初年度ということで募集が間に合わず、他大学の方に御協力をお願いして「**書籍紹介**」を２件掲載している。また活動報告的な要素を残すため、男女共同参画推進室の３つの部門「企画広報環境整備部門」、「学生教育等部門」、「女性研究者支援部門」から「**九州大学男女共同参画推進室の現状と課題**」と題し、それぞれの部門長が活動報告をまとめている。そして最後にその年度の調査結果や整備された学内規程などが**資料**として掲載されている。

巻頭言は担当理事で、Vol.2以降はできるだけ同じ方が重ならないように、担当の理事、副学長、副理事が交代で執筆し、編集後記は実質的な編集責任者である編集副委員長が執筆した。

以上が創刊号の構成であり、概ねこの構成を守りつつ次号以降も発刊している。

主要シリーズのトピック

ポリモルフィア誌の毎号の冒頭を飾る「**特集**」はVol.2以降も九州大学で開催したイベントの抄録を中心に掲載することが多かった（本誌pp.134-135にリストを掲載）。特にVol.2では米国スタンフォード大学のLonda Schiebinger

教授を招聘し、2016年3月に開催したシンポジウムの抄録を掲載した。同氏提唱のGendered Innovationsに関するシンポジウムは、日本の大学では最初の開催であったため、講演やパネル討論を含め、この記録は貴重な資料となった。

Vol.3の特集では九州大学が実施した男女別論文業績分析の結果を収録するなど当時としては画期的なデータを基にした解析が注目された。Vol.8では当室玉田薫副室長の執筆による「女性の翼を折らない組織づくりとは」で九州大学の取り組みを始め、多様性に関する問題提起がなされている。

「**世界の窓から**」ではGender Summitなど主に国際学会の参加報告を中心に掲載してきたが、Vol.9では男女別の進学に関する海外調査の結果を、Vol.10では海外滞在により直接感じた海外との違いを、とその内容の幅を広げつつある。

「**九大フラッシュ**」では先述した文部科学省補助事業の報告に加え、伊藤早苗記念基金の事業を紹介している。九州大学若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞（伊藤早苗賞）の受賞者紹介はVol.4から、女子高校生対象の理系インターンシップQURIESプログラムもVol.7からと、開始年から掲載している。またVol.5では日本科学技術振興機構（JST）が2019年に新たに創設した輝く女性研究者活躍推進賞（ジュン・アシダ賞）に対し、九州大学が第1回受賞機関となったことを報告した。そのほか学内のイベントとして、女性のロールモデル紹介に関連するイベント報告を中心に掲載している。

投稿論文・寄稿記事

男女共同参画推進室がそれまでの活動報告を廃刊し、ポリモルフィア誌を創刊するに至った大きな目的の一つが「研究論文等の発表媒体も有」し、「多様な議論の場を提供」することであった（前述「創刊の経緯」より）。

創刊号では掲載する著作の作成にあたり2015年 12月1日に「ポリモルフィア執筆要項」を制定した。さらにVol.2から投稿論文、寄稿記事を募集するにあたり、2016年7月15日に「ポリモルフィア投稿規程」を整備した。この中に「投稿する内容は、ダイバーシティ、男女共同参画、女性のキャリア形成等に関わるものとする。」と明記し、また「4．投稿にかかる記事の種類」として以下7つを挙げている。

①論文
②研究ノート
③資料（史料）（データ分析、翻訳等を含む。翻訳は著者の翻訳許諾済みのこと。）
④書評
⑤研究動向
⑥活動報告
⑦その他編集委員会が認めたもの
（現在はエッセイが追加されている）

このうち①の論文は学内専門分野の教員2名による査読を実施することとし、査読規程も2016年11月8日施行で別途設けている。その他の記事については編集委員が簡易査読を行っている。

ポリモルフィア誌がその創刊の目的を果たしているかどうか、創刊号からVol.10に至るまでの投稿、寄稿記事の種類の件数を示したものが表1である。整理の都合上創刊号の書籍紹介を④の書評に含める。（本誌pp.135-137にリスト掲載）

創刊以降の10年で、全体で41件の掲載があり、年平均4件を超える投稿・寄稿がある。投稿論文

表１　ポリモルフィア　投稿・寄稿記事件数の推移

種類 ＼ Vol.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
①論文		1					1				2
②研究ノート		1		1	3	1		2	2	3	13
③資料（翻訳等含）			1		1	1				1	4
④書評／書籍紹介	2		2								4
⑤研究動向											0
⑥活動報告		1		3	2	2	3	1	2	1	15
⑦エッセイ				2						1	3
各号 掲載件数	2	3	3	6	6	4	4	3	4	6	41

に関しては全体で２件と掲載されたものは少ないが、当初論文として投稿されたものの査読の結果、学術的な見地や記述内容の特性から研究ノートなど他の種類の記事への修正変更をお願いしたものがいくつかある。全体で見てみると最多は活動報告で15件、次が研究ノートの13件である。

活動報告では、岩手大学、横浜国立大学、群馬大学、東北大学、長崎大学、名古屋工業大学、宮崎大学、東京大学など文部科学省補助事業採択機関の取り組みが紹介されており、加えて米国ウィスコンシン大学、コロラド大学など海外機関の活動も紹介している。ポリモルフィア誌が男女共同参画推進や女性研究者の活躍促進に資する活動を、九州大学だけでなく他機関の取り組みを含めて発信し、全国展開するという役割は果たしていると考えられる。

研究ノートは13件でさまざまな対象、取り組みに対し、ユニークな学術的視点から分析、考察している様子が読み取れる。

資料では、海外資料の翻訳の他、政府発行の男女別データを基に分析した結果の紹介がなされている。書籍紹介は４件であるが国内外の書籍が取り上げられており、エッセイも３件ながらユニークな視点の著述がまとめられている。

この投稿・寄稿記事に関しては、掲載論文数を増やす努力は必要であるが、創刊の目的に対して一定の成果は出しつつあると言えるであろう。

今後に向けて

筆者は創刊の年に男女共同参画推進室に着任したが、編集委員会へ名を連ねたのはVol.9からである。編集委員として１つの冊子が完成して行く過程を実体験し、責任の重さを改めて認識した。本特集に寄稿いただいた創刊時の専任教員 武内真美子氏の当時のご苦労に改めて謝意を表したい。

本ポリモルフィア誌は九州大学が男女共同参画推進室を2004年に立ち上げて以降、積み上げてきた活動のその先の展開を目指し、創刊された。学内の執行部、部局長を始めとする関係者はもとより全国の女性研究者支援室等を有する国公立・私立大学、国立国会図書館、国立女性教育会館や男女共同参画センター等を有する自治体など幅広く配布してきた。創刊以来電子媒体も男女共同参画推進室のウェブサイトで公開してきたが、今後は利便性を高めるため九州大学リポジトリへの掲載を検討している。

歴代の編集委員・関係者の皆様、本誌に寄稿、投稿いただいた皆様に感謝するとともに、10年の節目を機に、本誌の創刊に懸けられた熱意を改めて思い起こし、その想いが今後も長く引き継がれ、次の段階の発展に繋がることを願っている。

本誌のバックナンバーは以下から閲覧可能である。

https://danjyo.kyushu-u.ac.jp/activity/index2.php?r_mode=2